

## おおた障がい施策推進プラン（素案）の区民説明会（第2回）質疑応答の要旨

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
1	<p>成年後見制度における社会福祉士会との連携について、具体的に何かあるのか。</p>	<p>大田区では成年後見センターとして大田区社会福祉協議会を位置づけ、社会福祉士会、司法書士会、弁護士会と地域の実状をどう把握していくかという協議を進めている。</p> <p>今後も地域ネットワークをどう構築するかについての協議を進めていきたい。</p>
2	<p>障がいの分野について、今後、他の会議の場でいろいろと説明したり、意見をいただいたりということがあるのか。</p>	<p>来年度の地域福祉計画の策定においても色々と議論していきたい。</p>
3	<p>障がいのない人が障がいをどう理解し受容していくのかということが大きな課題である。パンフレットを配るだけでなく、会議等で説明してほしい。</p>	<p>昨年度、区民への周知・啓発を目的に障害者差別解消法のパンフレットを作成し、商店街も含めて配布した。</p> <p>趣旨説明等が足りなかった部分も含めて、今後はしっかり対応していきたい。</p> <p>また、障がい者差別解消を進めるにあたっては、お互いの「建設的対話」が重要であり、そういったことも含めて、引き続き取組を進めていきたい。</p>
4	<p>大田区には私立の幼稚園しかなく、発達障がいの子どもを受け入れてもらえない。発達障がいには色々な特性があるため、馴染めない子もいる。</p> <p>長い目でプランの中に組み込んでほしいが、どのように考えているのか。</p>	<p>切れ目のない支援ということで、こども発達センターわかばの家での支援、障がい者総合サポートセンターの二期工事部分の学齢期の発達障がい児支援、就労に向けての支援の3つの輪を重ね合わせた支援を考えている。</p> <p>こども発達センターわかばの家では、幼稚園や保育園に入っている方に対して月1回の外来訓練を実施しており、幼稚園や保育園でも生活ができるようにどういう工夫をすればいいかということも具体的に考えている。</p> <p>講演会等も実施し、幼稚園や保育園での支援等、地域の力をつけていくことにも取り組んでいる。</p> <p>また、保育園については、平成30年から、心身に障がいのある方で、大田区の統合保育審査会で要支援と認定された場合には、より利用しやすいように準備をしている。</p>
5	<p>就学相談では、支援学級に入れるかどうかという判断がされるだけである。</p> <p>幼稚園、学校、この二つの時期における横</p>	<p>教育センターで行っている就学相談については、学務課とも連携を取りながら、今後も実施したいと考えている。</p>

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
	<p>のつながりに関してどう考えているのか。</p> <p>また、「保護者の気持ちに寄り添った」というのを、具体的にどのように考えているのか。</p>	<p>いただいた意見を教育センターに情報提供し、引き続き保護者の方々にしっかりと寄り添い、丁寧な説明を心がけるように相談体制を整えていきたい。</p> <p>また、発達障がい児への対応について、研修等を通して教員の理解・啓発に努めている。</p>
6	<p>地域の課題が見えていなければ、きちんとした計画が成り立たないと思うが、どのように考えているか。</p>	<p>昨年度は実態調査を行い、数量的な部分についての把握に努めている。</p> <p>また、障がい者施策推進会議では、各団体や、自立支援協議会等の意見も含めて検討している。</p>
7	<p>65歳問題というのが障がい当事者の方々にとって大きな問題となっている。</p> <p>障害者総合支援法と介護保険法は全く法律の立ち位置が違うため、実際に困る場面もある。</p> <p>ケアマネジャー、区の相談窓口、調査員、地域包括支援センターのそれぞれが、一定の知見を持っていないと対応できない。</p> <p>介護事業所が障がい分野に参入するにあたり、必要なことを学べる研修を設けてほしい。</p>	<p>人材については、非常に大きな問題だと認識し、障がい者総合サポートセンターを中心として様々な研修を実施している。</p> <p>今回の法改正の中で共生型サービスという新しいサービスも出てきており、この部分に対応できる人材の育成についても、今後取組を検討していきたい。</p> <p>65歳問題については、ケアマネジャー、相談支援専門員、両方の制度についての研修を昨年度から始めており、効果的な研修について、今後考えていきたい。</p>
8	<p>社会福祉士など、人材育成の学校をつくってもいいのではないか。</p>	<p>今後研究をしていきたい。</p>
9	<p>自立支援協議会の就労支援部会では、「切れ目のない」というキーワードに繋がる課題として、グレーゾーンの方々に焦点を当て、事例検討等をしている。</p> <p>積極的な交流を通しながら、切れ目がない状況をどうするのかということを見現化していただきたい。</p>	<p>グレーゾーンの方々の支援は大変重要だと考えている。</p> <p>ケースワークに関わる部分が多いと思うが、連携先をつくり、ネットワークを有機的なものにするということが区の役割だと認識している。</p> <p>障がい者総合サポートセンターの二期工事が完了すると、相談支援部門、学齢期に対応する部門、就労支援部門があるということになり、内部の連携も一つのモデルになると考えている。</p>
10	<p>居住の問題は重要な課題である。母子家庭や高齢の単身の方を含め、これを総合的かつ包括的にやっていくということを見せていただきたい。</p>	<p>地域で暮らしていくためには居住が基本と考えている。</p> <p>居住支援協議会の設置は、高齢や障がい等の分野別ではなく、困窮する方すべてを含むという視点も大事だと考える。意見があった</p>

No.	意見・質問等の要旨	区の回答要旨
		ことを所管に伝え、今後包括的な取組を進めたい。
11	区民説明会の周知に関して、もっと早くお知らせし、より多くの人に参加しやすい説明会にしてほしい。	今後の検討に活かしていきたい。